あゆみ通信

VOL.136
あゆみの会(真宗大谷派大阪教区第２組同朋の会推進員連絡協議会)
会長　浪花　博
広報　本持　喜康

彼の岸は浄土か冥土か天国か

彼岸という言葉は、時節の表現として使っていますが、彼岸が彼岸にならなければ、彼岸を過ごしたことになりません。彼岸を過ごすことはどういうことなのでしょうか。「浄土」を「冥土」「天国」と同列に並べてみると違和感があります。それは浄土がまるで冥土や天国からイメージされるような死後の世界であるかのように映ってしまうからです。

彼岸は「彼の岸」です。「此の岸」に対する意味です。此岸(しがん）とは、世間的な常識の世界で、今私たちが生きている社会そのものです。悪いことをしてはいけません。善いことをしましょうとか。結婚式は大安が良くて仏滅はいけないとか、友引に葬式はしないとか。そんな世間に生きている私に「何故だろう」という問いが起こるとすれば、それが彼岸の働きです。

彼岸は「あの世」ではありません。「虚仮なる世間」に対して「真実なる世界」のことを言うのです。それを「浄土」と表現しているのです。(中略)

「彼の岸」をどう受け止めるのか、暗黒の迷いの境地か、智慧の光の世界かによって、私の生き様が転換されてきます。死んだ人の問題ではありません。亡き人の行方を彼の岸に訪ねることによって「私」そのものが問われ、亡き人の為に供養していた私が許されていたことに気づかされ、そこから自分自身の救いという課題が開かれてきます。

私自身が救いを求める者として立った時に彼岸が彼岸になるのです。（米澤典之「真宗の生活」2010年から）

池田英二郎副組長

墨林浩組長

第２組人事
新組長に墨林浩光照寺住職　副組長に池田英二郎宗恩寺住職が選出されました

３月１０日（火）に第２組組内会が開催され、今期を勤められた海老海恵幸組長（了安寺）、喜左上恵子組長補佐（紹隆寺）、松本隆信副組長（西教寺）に代わり、新組長と副組長が選出されました。お世話になった前任者の皆さん、ありがとうございました。新組長、副組長さんには、よろしくお願いいたします。

ご縁の皆様へ

昨今の新型コロナウイルス感染拡大騒ぎで、第２組では同朋大会をはじめ、聞法会や、また、本山では彼岸会法要をはじめ春の大法要もご住職方による「内勤め」となりました。

感染経路もわからず、不安だけがありますが、阿弥陀仏にお任せして、お内仏のお勤めをお願いします。体調管理ご注意を。

緊急告知
4/17の第２組聞法会は中止です

先にご案内の第２組聞法会は、新型コロナウイルス感染拡大のため、万全を期して中止となりました。

以後の行事については、諸般の状況を勘案しながら、改めてご案内します。皆様におかれては、体調管理に十分、ご注意ください。

大推協主催の本廟奉仕も中止に

4/8～9に予定の本廟奉仕も、本山からの4月中は中止ということで募集は中止になります。

最初のボタンのかけ違いが

降ってわいたようなコロナウイルス感染騒ぎにも、人間の想定外のことであるが、その対処も、最初のボタンの掛け違いが終わりまで引きつり取り返しのつかない結果になる。

原発は、中国武漢であろう。でも、迎えた春節祭という大移動を甘く考えて、中国も日本も、対応の誤りにすべての原因がある。いずれも忖度なく移動禁止、入国禁止の処置をとっていれば、こんなに感染拡大することはなかったであろう。適切な大英断の対応がいかに必要かがわかる話。

続いてクルーズ船での感染拡大である。感染症研究学者による防疫体制を組まずに、素人の厚労省官僚のイニシアティブによる対応が、感染拡大を招いたことは否めない。（7裏面の文章と連動）

医療現場にマスクが不足する等の事態に見る政府の対処療法に終始する日本に、世界が失望すると同時に、真に国民のいのちを守るという立場になっていない政府に、背筋の寒い思いがするのは、自分だけであろうか。とりあえず，自衛のできることをする。（本）

友人の手紙から
クルーズ船の中で

古い友人Tからの便りで教えられたのは、問題のクルーズ船ダイアモンド・プリンセス号での人権侵害であった。
彼の友達が、あのクルーズ船に乗務員として乗っていた。いったい船内では何が行われたのか？厚生労働省の職員は、何をしていたのだろうか。
そこには、真実が隠されていた。彼の言葉を聞いてみよう。

「2月1日、船は沖縄に寄港して出入国手続きも検疫も終え、横浜港まで国内移動のはずであったが、3日に横浜港に着岸するや入港を拒否され、海上に強制停泊させられた。法的な根拠は何もないのだから、非常事態への乗員乗客の協力を求めるべきだったが、何の説明もなかったという。

加藤厚労相は2週間程度の拘束と発表したが、検査は遅々として進まない。その間、乗客も乗員も保菌の可能性があるのに、船外からの応援もないままサービスは続けられ、、次々と感染者が増えて言った矢先、2月10日の報道で感染者が一気に倍の135名になった。すでに2次感染が広まっているのだろう。国の不作為が乗客や乗員の人権を侵害している構図で、彼ら3700人の下船はいつになるやら、事態は混迷を深めている。」(2/10の記録)　彼は、このことをこのように整理する。「いったん沖縄で入国を認め、2日後に横浜で取り消す根拠は何処にもない。他方で政府は、船上だから災害対策法は適用されないと頑なな姿勢を崩さない。一両日の短期停泊ならまだしも、見通しのない船内隔離はどう考えても法律違反である。また、本来なら感染拡大を避けるために、感染・保菌率の高い乗員に代わって新たな別の支援要員を出動させるべきだが、自衛隊は医務官だけの派遣にとどまったまま、さらに3700人という大人数にするためには陸地への分散隔離に協力してもらうべきだが、差別におののいてか、大阪も含めて寄港地の受け入れは全くない。

友人は、乗員1200人の大半はアジア諸国での現地採用の臨時職員だということ。そして、船が「豪華客船」とばかり喧伝されていたこと、そうしたことが偏見を助長しているのではないかといぶかった。こうして、新型コロナウイルス事件は、「豪華客船」人権侵害事態をも伴った大事件に発展しようとしている。彼は言う。改めて日本は人権に疎いと痛感した。国民に人権の尊重を教育啓発するのは重要だが、人権は第一義的には、権力者、権限を持つ地位にあるものに課せられる義務であるべきだと痛感した。」

その後、判明した船内の状況は、続々と増える乗務員や乗客の感染者数で、厚労省の防疫対策の不手際による感染拡大が世界に露見した。
武漢で感染が出たのは、中国の春節祭前。そこで中国人の渡航制限をかけておけば、これほどの拡大は無かったであろう。また、その後の政府の対策も後手後手で、医療機関などや国内でマスク不足対応もちぐはぐで、テレビ朝日の羽鳥アナモーニングショーで、「医療現場を守らなくて、対応が満足にできるのか。まずは不足するマスクを優先していい医療現場に届けなくてどうする」と言われて、厚労省はかじ取りをマスクを医療現場に向けて送ることを始めたという風に、どうしようとしているのかわからない。それこそ、また、いまだに、市場にはマスクは品切れ状態が続いている。首相は甘い言葉だけで実行の伴わない、国民の不安解消を実現しなくて、何が政治か。それこそ「殿、ご乱心？」と思えるばかりである。人のいのちを最優先にすることを忘れて、金融、経済、財政などを念頭に置いた処置としか考えられない。

自分で自分を守るために、最低限のうがいや手洗いと、また、不要不急の人込みには出ていかないことぐらいを、目指すしかないのだろう。(本)

第2組日帰りツアーお誘い

あゆみの会第2回例会を兼ねた第２組日帰りツアーに参加しませんか。願わくば、新型ウイルス感染騒動がおさまることを祈念しつつです。

日時5月26日(火)
集合時間と場所　天王寺公園
バス乗り場　午前8時30分集合
行く先　浄土真宗高田派専修寺と伊賀上野城散策等
参加費　6000円(昼食代を含む)
ただし、交通費などは自己負担でお願いします。
申込は　お手次のお寺へ、4月中にご連絡ください。

この一冊
「続清澤満之と歎異抄」

(延塚知道著　文栄堂2005年)

最近「歎異抄」の学びが多いのに気づきます。なぜ、今、「歎異抄」なのか。
何故、浄土真宗の先達清澤満之師は、歎異抄をクローズアップさせたのか。著者延塚知道先生は、清澤満之先生が「歎異抄」から学ばれたのは、信念の確立とそこから展開した僧伽の原理だと言われる。特に、先生は我々が身を置く大谷派の宗門の現状を見たとき、「僧伽とは何か」ということを「歎異抄」に教えられなければならないと思われたからと言われる。